

令和3年度一橋大学学位記授与式 祝辞

令和4年3月18日

LINE 株式会社

上級執行役員

稲垣 あゆみ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの門出に際して、このようなメッセージを贈る機会をいただき、とても光栄に思います。

私が皆さんのように卒業式に参列していた16年前、まさか自分が卒業式で祝辞を述べる機会をいただくとは想像もしていませんでした。

入社した会社を3日で辞めたり、海外に飛び出したり、安定したキャリアのスタートとはとても言えなかったからです。

ですが、「アジアから世界に通じるサービスをつくりたい」という夢を持ってワクワクしていました。

そのワクワクに向き合い、ひたすらに歩んできた16年でもありました。

今日、皆さんにお伝えしたいのは、皆さん一人一人のワクワクすることに向き合い、それを信じて歩んでほしい、ということです。

私は、学生時代に訪れた韓国や中国で見たインターネットのサービスが、とても面白い、と感じました。そこに、これからのインターネットサービスのたくさんのヒントがあると思いました。

当時、それをまわりの人に話しても、「韓国や中国のサービスといっても、アメリカのサービスのコピーでしょ？」と耳を傾けてくれる人はいませんでした。「模倣は創造の母である」とよく言われるように、検索サイトなどの技術力の高いサービスを独自に創っている事が素晴らしいと思いましたし、さらにその国のユーザーのニーズに合わせてよく作り込んでいる事に驚きました。自分もこんな風にサービスを作れるようになったら、日本でも、世界でも通じるサービスが作れるのかもしれないとワクワクしました。

しかし、どうやったらそんなサービスを作れるのか、その時は全くわかっていませんでした。

さらに、卒業後に就職した会社を3日でやめてしまいます。希望が叶わず、私のやりたかった仕事と全然違う配属になったからでした。3日で辞めるなんて非常識でしたし、辞めてどうするかも決まっていませんでした。でも、いつかアジアのインターネットのサービスを作るチャンスが来るかもしれない、とただ待つてなんかいられませんでした。

いつ死ぬかもわからないし、いつ子どもを産むかもわからない。自分のために100%の時間と情熱をかけられるのはいつまでなのだろう？いま挑戦したい事があるなら、一日でも無駄にしたら後悔する。

そう思い、アジアのインターネット業界に飛び込みました。

正直、安定した大企業に就職した同級生より給与はずっと低かったですし、周りを見てもロールモデルは見当たらないし、何も保証はなくて、不安ばかりでした。

でも、自分がとても興味ある事に関わっていて、自分らしく働いているなと思いました。ソウルや北京で働きながら、優秀な仲間がたくさんできました。ユーザーの求めている良いサービスを作るためなら、言葉も文化も超えられる事を知りました。そして、少しずつ夢に近づいていった先に「LINE」を作る機会を得ました。2011年に東日本大震災が起きた時です。

それ以来、11年「LINE」を色んな国の仲間と共に作って来ました。LINEは台湾やタイなど、世界で1億9000万人に使われています。成功して安定しているようにも見えますが、一歩先も見えないような、本当にジャングルみたいな道のりを歩んできました。気づけば会社も9000人が働く大企業になっていました。

当然ですが、卒業した2006年には、スマホはもちろん、アプリもありませんでした。アプリを創る職業もありませんでした。将来の予測が不可能なVUCAの時代と言われますが、どんどん社会は変わっていきます。卒業生の皆さんの中にも、私のように5年後、10年後に、今は存在していない仕事をしている人が増えていくと思います。

そして、経験ある先輩や、親の言っている常識が非常識になり、皆さんが感じている事が当たり前になっていく事も増えていくと思います。

皆さんが社会に触れて得た、生の直感やワクワクをどうか信じてみてください。もし、いまあなたがそのワクワクの実現方法がわからなくても諦めないでください。その道をまだ誰も歩いていなくても、きっと道は開けていきます。

そして、そんなジャングルのような自分の道を進んでいって、ふと振り返った時に、自分の後ろに自然と「自分とは何者か」を表す「キャリア」ができているものだと思います。

自分の信じるワクワクを胸に、後悔しないあなただけの人生を歩んでください。
この度はご卒業、誠におめでとうございます。